

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称：株式会社マスネットワーク	所在地：長野県松本市巾上 13-6
評価実施期間：平成 26 年 4 月 1 日から平成 26 年 12 月 25 日	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） 060881 060892 060672 050231	

2 福祉サービス事業者情報（平成 26 年 10 月現在）

事業所名：紅林荘デイサービスセンター （施設名）	種別：通所介護
代表者氏名： 理事長 大槻 憲雄 （管理者氏名）施設長 名取 和夫	定員（利用人数）：25 名(62 名) 併設 特別養護老人ホーム紅林荘
設置主体：社会福祉法人 ジェイエー長野会 経営主体：社会福祉法人 ジェイエー長野会	開設年月日：平成 16 年 4 月 1 日
所在地：〒399-0211 長野県諏訪郡富士見町富士見 3107 番地 2	
電話番号：0266-61-2085	FAX 番号：0266-61-2081
ホームページアドレス：http://www.ja-naganokai.or.jp	

3 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

【概況】

紅林荘デイサービスセンターは、平成 14 年に開設した特別養護老人ホーム紅林荘に併設され、平成 16 年に地域住民の福祉の拠点として、信頼される施設となることを目指して開設された。作業療法士を職員として配置してリハビリテーションに力を入れ、さらに同じ職員と常に接することで作り出される家庭的雰囲気があり、利用者一人ひとりと親しく向き合う介護が出来ている。

特に良いと思う点

1 馴染みの関係作り

施設は家庭を感じさせる比較的小さな空間である。月～金曜日の営業日のために毎日同じ職員体制であるため、利用者と職員は馴染みの関係作りが出来ている。職員は利用者の表情や行動の観察、見守りができ、利用者からの言葉も把握しやすい。職員間で情報の共有がし易い環境にもある。『ここに来ると元気が出る。退屈することがない。みんな明るくて最高だ！』など評価の高い声が聞かれた。提供している福祉サービスが馴染みの関係を深め、利用者の拠りどころとなり、進んで事業所を利用している。

2 「食」への支援

事業所の中に栄養科という部門を設け、管理栄養士と調理員が手作りの給食を提供している。年 2 回栄養科が主体となり嗜好調査を行い、利用者の意向を把握し献立に反映させている。温かい料理は温かく食べていただけるよう、ご飯と汁物についてはダイルームの中でその場で盛りつけて配膳しており、家庭的な雰囲気を持ち込む工夫が感じられる。また、調理員一人ひとりが考案した新メニューが食卓に並び取り組みも行われており、盛りつけには紅葉の葉をあしらう等の工夫が目を引き、利用者の楽しみや満足感に繋がっている。

3 職員配置の充実

作業療法士や複数の看護師の配置、協力病院の言語聴覚士や特別養護老人ホームの理学療法士等の連携指導により、一人ひとりのニーズに基づいて個別の機能維持、予防の視点でメニュー

ーを用意して支援している。午前・午後の日課を利用者に解り易く計画して、取り組み易いように工夫している。介護予防機器を使用しての運動や作業療法士指導による介護予防体操、施設周辺、施設内の長い廊下等での歩行を積極的に行っている。運動や作業に励んでいる姿から、自信ややりがいを利用者が感じていることがうかがえた。

特に改善する必要があると思う点

1 中・長期計画の策定について

理念に基づいた基本方針を実現するためには、短期毎の事業計画だけでは実現しない。課題や問題点も多くあり、さらに年度毎の計画であると目先の事業にとらわれがちになるので、長期展望に立った、着実な事業実施が望まれる。事業所の設備整備や職員体制、利用者の状況等の把握は充分に出来ているので、中・長期計画を策定し、年度ごとの具体的な事業計画や予算を策定されることを期待したい。中・長期計画は今後の施設のあり方を内外に発信することであるので、利用される方のみならず、職員にとっても自らの環境等が変化することに繋がるので、重大な関心事であると言える。地域や職員から安心や信頼感を得るためにも、多くの方から指示される中・長期計画策定が望まれる。

2 地域の福祉向上のための取り組み

地域との交流、関係機関との連携、各種ボランティア団体の受け入れなど地域の福祉ニーズを把握する多くの機会を持ち、さらに介護保険制度以外の福祉ニーズの必要性も充分に把握している現状においては事業所の持つ専門性を地域に還元する具体的な事業展開が望まれる。地域にとって必要な施設になることは、利用者や地域をつなぐ大きな要素にもなり、法人の理念にある「その人らしい日常生活を地域社会で営む」ことへも、つながって行くものと思われる。

3 口腔ケアへの取り組み

これまでも口腔ケアの取り組みは行われているが、一人ひとりの利用者に応じた口腔ケア計画を作成し、継続的な支援に取り組まれることを希望したい。利用者が元気でいたいと願う介護予防の視点を重要な支援として取り組まれている事業所であり、職員の介護予防の意識も高くまた職員体制も整っており、最後まで口から食べる楽しみを確保し、口腔機能を保持・改善すること等の継続した取り組みは、事業所が目指すその人らしい暮らしの実現に繋がっていくと思われる。

4 事業評価の結果と講評

共通項目（別添１）

内容評価項目（別添２）

5 利用者調査の結果

聞き取り方式の場合（別添３ - ２）

6 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント（別添４）

（平成 27 年 1 月 15 日記載）

今回、福祉サービス第三者評価業務を行っていただきましたところ、総合的に高い評価をいただき素直に喜びたいと思います。

今後は、この結果を基に評価の高いところは、施設の特徴として活かしながら継続し、さらに質の向上を目指したいと思います。また、評価の低いところについては、課題や改善内容等が明確になりましたので、評価結果を真摯に受け止め利用者や家族の皆様にご満足していただけるよう全職員一丸となって改善に向けて一層努力してまいります。